

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北見工業大学
設置者名	国立大学法人北海道国立大学機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
工学部	地球環境工学科	夜・通信		5	9	14	13	
	地域未来デザイン工学科	夜・通信			12	17	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.kitami-it.ac.jp/engineering-graduate/sirabasu/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北見工業大学
設置者名	国立大学法人北海道国立大学機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/about/officer.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	学校法人慶應義塾学事顧問	令 4.4.1 ～ 令 8.3.31	業務全般の総理
非常勤	株式会社アイネス 執行 役員兼アライアンス推進 本部長	令 6.4.1 ～ 令 8.3.31	経営戦略、広報戦略、 情報化戦略他
常勤	国立大学法人北海道大学 名誉教授	令 7.6.1 ～ 令 8.3.31	産学官金連携他
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北見工業大学
設置者名	国立大学法人北海道国立大学機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成している。シラバスはホームページにおいて公表している。 必要に応じ、教育改善推進室において、シラバス記載内容の検証・改善といった取組を行っている。	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
履修登録をした科目について、各学生の学修成果に基づき、シラバスに公表している成績評価の方法・基準により厳格かつ適正に単位を与えている。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学修成果を量だけでなく質としても保証するため、客観的な指標であるG P A制度を全学で導入しており、G P Aの算出方法を定め、学生便覧や入学時ガイダンスにより学生へ十分に周知している。設定したG P A制度に基づき、学生の所属毎の順位も把握し、適切に実施している。 G P Aの算出方法：(履修登録した授業科目の単位数×<u>評価点</u>)の総和 ÷履修登録した授業科目の単位数の総和 ※小数点第2位まで表示(小数点第3位を四捨五入) <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: right;"><u>評価点</u></td> <td>秀 (100－90点) : 4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>優 (89－80点) : 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>良 (79－70点) : 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>可 (69－60点) : 1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>否 (0－59点) : 0</td> </tr> </table>		<u>評価点</u>	秀 (100－90点) : 4		優 (89－80点) : 3		良 (79－70点) : 2		可 (69－60点) : 1		否 (0－59点) : 0
<u>評価点</u>	秀 (100－90点) : 4										
	優 (89－80点) : 3										
	良 (79－70点) : 2										
	可 (69－60点) : 1										
	否 (0－59点) : 0										
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.kitami-it.ac.jp/campuslife/kyouikukatei/ninnte/										
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ディプロマポリシーを定めホームページ等で公表している。併せて修学指導上の参考とするため、各学科・コースで身につけるべき資質・能力の目標を明確にした目標達成度評価を設定し、適切に実施している。											
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.kitami-it.ac.jp/engineering-graduate/policy/diplomapolicy/										

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北見工業大学
設置者名	国立大学法人北海道国立大学機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/disclosure/finance.php
収支計算書又は損益計算書	https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/disclosure/finance.php
財産目録	該当無し
事業報告書	https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/disclosure/finance.php
監事による監査報告(書)	https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/disclosure/finance.php

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:第4期中期目標・中期計画	対象年度:令和4年度～令和9年度)
公表方法: https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/about/plan.php	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kitami-it.ac.jp/about/disclosure/info-about-kitami/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kitami-it.ac.jp/about/disclosure/info-about-kitami/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kitami-it.ac.jp/future-vision/) (概要) 北見工業大学は「人を育て、科学技術を広め、地域に輝き、未来を拓く」を理念に掲げ、高度化・複雑化している科学技術の急速な進展の中で、「個々の専門分野についての基盤的な技術、知識を有するのみならず、学際領域や新しい分野の開拓にも柔軟に対応できる能力を持ち、自然と調和した科学技術の発展と国際社会への対応を念頭においた技術開発を行い得る人材を養成する」ことを使命としている。このことをもって、本学は地域社会の発展はもとより、国家・国際社会の安全と平和および文化の進展に貢献する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kitami-it.ac.jp/engineering-graduate/policy/diplomapolicy/) (概要) <u>地球環境工学科</u> エネルギー、環境防災、先端材料物質の各基盤専門分野の知識・技術を修得し、様々な側面から地球環境問題の解決に寄与できる能力を有するとともに、課題の「発掘」から「解決」に至るプロセスを主体的に見出し、多面的・融合的に「考える力」を身につけた人。 <u>地域未来デザイン工学科</u> 社会における様々な課題の把握・解決のために、機械知能・生体工学、情報デザイン・コミュニケーション工学、社会インフラ工学、バイオ食品工学の各基盤専門分野の知識・技術を修得し、安全・安心で活力ある「地域社会の創生・デザイン」に寄与でき、その能力を日本国内はもとよりグローバルにも展開できる意欲を身につけた人。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kitami-it.ac.jp/engineering-graduate/policy/curriculumpolicy/) (概要) 北見工業大学工学部は、地球環境工学科と地域未来デザイン工学科の 2 学科から成り、更に各学科内にトータルで 8 つのコースが編成されている。この体制の下、北見工業大学工学部は、主体的に問題を解決できる能力と広い視野を有し、産業界で活躍できる工学技術者を養成するため、基礎学力や応用能力、並びに課題解決能力の育成を重視する。そのため、基礎や専門に関する通常の講義科目に加え、実験、実習、演習の場を積極的に活用し『アクティブラーニング』の機会を増やすことによって、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、創造的思考力の育成にも努める。また、国際社会に適応可能な「語学力」、社会における課題を把握・解決するための「課題解決能力」、工学技術者としての「倫理観と責任感」の高い人材を養成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.kitami-it.ac.jp/engineering-graduate/policy/admissions/) (概要) 様々な分野で活躍できる技術者を育成するために、北見工業大学は以下に示す資質と能力を有する人を求めている。 1. 理科や数学などの確かな基礎学力を基に獲得した工学的知識を活用して、倫理観と責任感を持って持続可能な社会の構築や地域の発展に貢献しようとする「工学心」を有する人 2. 工学に対する知識を活用して、様々な課題を主体的に解決するために必要な思考力・判断力・コミュニケーション力など、人間力向上に必要な知識を持続的に学ぼうとする「向上心」を有する人

3. 基盤となる工学の基礎知識を基に専門的視野を広げ、国際社会も含めて新しい分野や未知の分野に果敢に挑戦しようとする「向（好）学心」を有する人
4. 確かな基礎学力を基に工学を含む学際領域での教養や実践的スキルなどの修得に取り組もうとする「好奇心」を有する人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kitami-it.ac.jp/about/disclosure/kyoikujoho/gakubu-gakka-kenkyu-senko/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
工学部	－	40 人	57 人	3 人	17 人	0 人	117 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		15 人					15 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：http://hanadasearch.office.kitami-it.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	410 人	414 人	101.0%	1,660 人	1,733 人	104.4%	10 人	8 人
合計	410 人	414 人	101.0%	1,660 人	1,733 人	104.4%	10 人	8 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	369 人 (100%)	152 人 (41.2%)	204 人 (55.3%)	13 人 (3.5%)
合計	369 人 (100%)	152 人 (41.2%)	204 人 (55.3%)	13 人 (3.5%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成している。シラバスはホームページにおいて公表している。 必要に応じ、教育改善推進室においてシラバス記載内容の検証・改善といった取組を行っている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成している。シラバスはホームページにおいて公表している。 必要に応じ、教育改善推進室においてシラバス記載内容の検証・改善といった取組を行っている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	地球環境工学科	124 単位	☑・無	50 単位
	地域未来デザイン 工学科	124 単位	☑・無	50 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.kitami-it.ac.jp/campuslife/support/financial-support/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.kitami-it.ac.jp/center-info/shisetu-setubi/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	地球環境工学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	地域未来デザイン工学科	535,800 円	282,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 全学で「個別担任制」を実施。教員はそれぞれ1学年あたり5名程度の学生を担当し、迅速できめ細かな学生支援を行っている。また、個々の学生の修学・生活状況を集約した、電子ポートフォリオ（学生カルテ）を教職員で共有し、修学や心の問題に悩む学生に対して早期に適切な助言や指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路選択に係る支援は、①就職担当教員による学生一人ひとりに応じたきめ細かい進路相談②キャリアアップ支援センターにおいて、2年次向けの「進路選択ガイダンス」や3年次からの「就職ガイダンス」「合同企業研究会」などの全学的な取組を実施するとともに、進路選択に係る修学、コース配属、研究室配属、就職に関するものを主とした学生生活全般に關しての相談にも対応しており、上記2つのサポート体制で入学から卒業までを支援している。なかでも、就職担当教員による進路相談は、学生とのコミュニケーションを通じて長所・短所を深く理解したうえで、個性に応じて就職や大学院進学への指導を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 心身に不安がある学生への支援を目的として、カウンセラー2名（常勤1名・非常勤1名）による学生相談を定期的実施している。 なお、常勤カウンセラーにより学生が希望する任意のタイミングでも相談ができる環境が整備されている。 この他に、学生支援課職員や保健管理センターによる個別相談を行うとともに、教職員、カウンセラー及び医療従事者による「障がい学生支援室」を組織し、状況に応じた支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kitami-it.ac.jp/about/disclosure/kyoikujoho/>

○総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

(概要) 本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムは、令和4年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育（MDASH）プログラム」のリテラシーレベルおよび応用基礎レベルに認定されている。 本プログラムは必要な科目を学部2年次前期までに開講し、全学生が履修可能な設計となっている。 令和6年度末で最初のプログラム修了生335名が卒業した。リテラシーレベルの修了条件を満たした学生が335名（100%）、応用基礎レベルの修了条件を満たした学生が205名（61%）であった。 さらに、データサイエンスの素養を身につけた大学院博士前期の修了生を毎年約140名輩出している。
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F101110100065
学校名（〇〇大学 等）	北見工業大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	国立大学法人北海道国立大学機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		194人（ ）人	187人（ ）人	204人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	98人	96人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	50人	42人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	34人	35人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	12人	14人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ ）人
合計（年間）				207人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	14人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	一人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	16人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人	前半期	0人
		後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	一人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	21人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	13人	人	人
計	25人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。